

樂水樂山

らくすいらくざん

～「樂水樂山」～ の由来

住田高校を象徴するものとして、気仙川、清流、樺山、五葉山など住田の地形に関するものがあげられます。また、爽やか、活気、元気、挨拶など、生徒や学校の生き生きとした様子を表すものもあげられます。そこでこの両者を含み、本校の教育活動にも相通ずる意味を持つものとして、孔子の『論語』の「知者樂水、仁者樂山」（知者は水を楽しみ、仁者は山を楽しむ）を引用し、造語「樂水樂山」を作りました。

1 県立学校復興交流推進事業～植樹ボランティア～ 今年も桜ライン311の活動に協力



(まずは横田基幹集落センターでの講話)



(復興を願い心を込めて植樹)

東日本大震災以降、県内のすべての小中高校で取り組んでいる復興教育。気仙地区の高校生として、地域の復興への思いを育んでほしいと願い、また陸前高田市出身生徒が31%という状況に鑑み、今年も認定特定非営利法人桜ライン311の活動にボランティア参加することにしました。

さて実施日の11/26(水)の降水確率は70%、実施が危ぶまれましたが、何とか作業中は雨に見舞われることもなく、無事4本の桜の苗木を植えることができました。



(鹿よけ柵も設置し完成)



(最後はスタッフの方々と記念撮影)

雨が降り出した午後から

は、岡本代表の講話。桜ライン311の活動理念や、復興にかかる岡本代表らスタッフの思いをうかがうことができた貴重な時間となりました。来年以降もこの活動は継続していく予定です。

- ・人々の希望となる活動を継続的に実施していてすごいと思いました。自分もできることをやってみたくです。
- ・植樹作業はすべて手作業で大変でしたが、また機会があったら参加してみたいと心から思いました。
- ・先輩が昨年植えた桜が開花したと聞きました。自分達の桜も来年の開花を願い、心を込めて植えました。
- ・桜ラインのスタッフの方がとても親切でした。今回の事業をきっかけに復興に貢献したいと思いました。
- ・自分が植えた桜が、震災で亡くなった人の無念を後世に届けてほしいと願って植えました。
- ・将来家族を持ったときに、これがオレが植えた桜だ、と自信を持って言えるように、育ててほしいです。